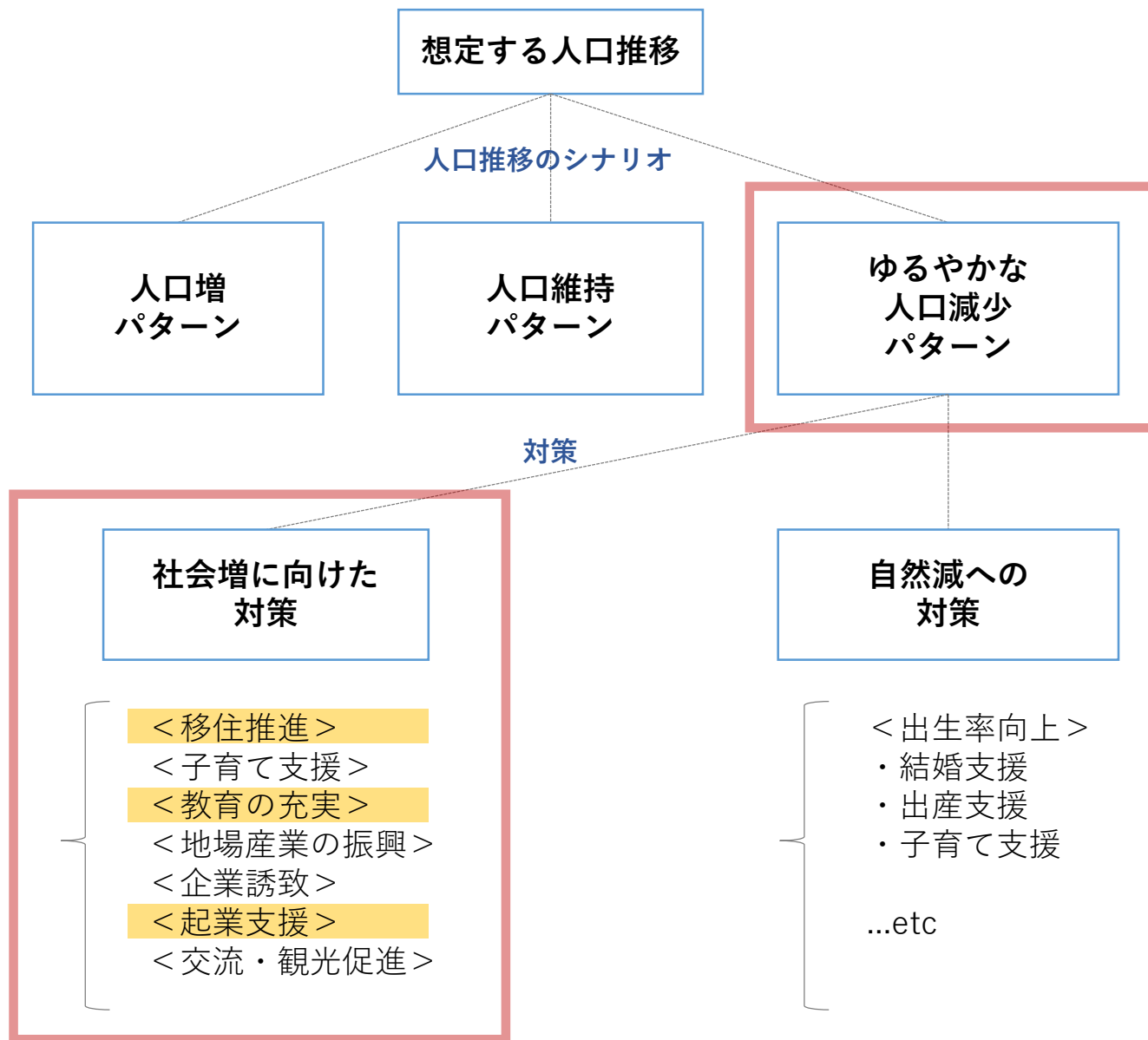


**第3次雲南市総合計画
策定委員会
【第6回】**

人口ビジョンの策定方針について

2023年10月13日

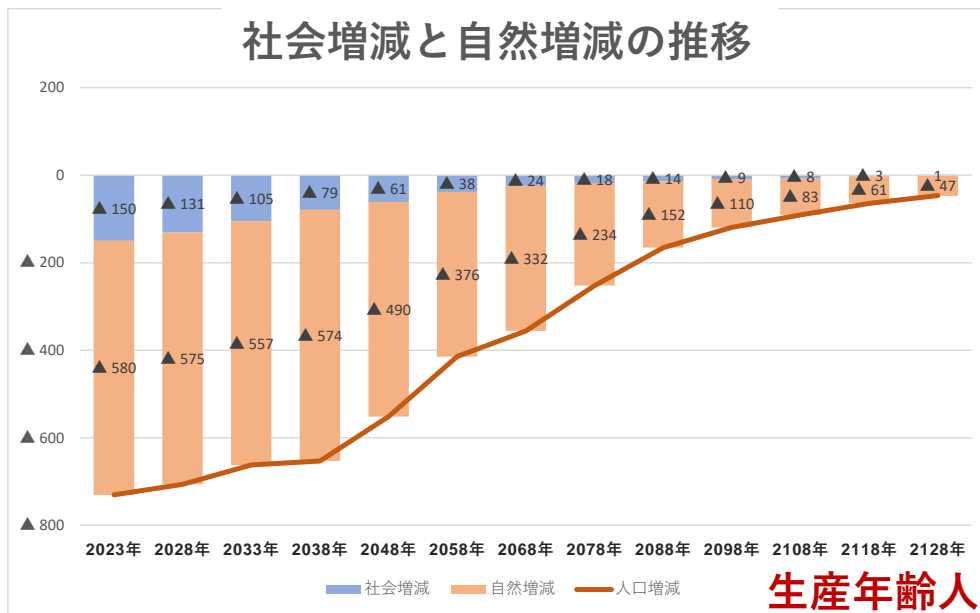
1. 人口ビジョンの前提



人口ビジョンの前提となる考え方

- ① 人口減少をゆるやかにするために、できるだけ抑制する。
- ② 人口減少による地域への影響を想定する。
- ③ 持続可能なまちの姿を描き、基本構想・基本計画に反映させる。

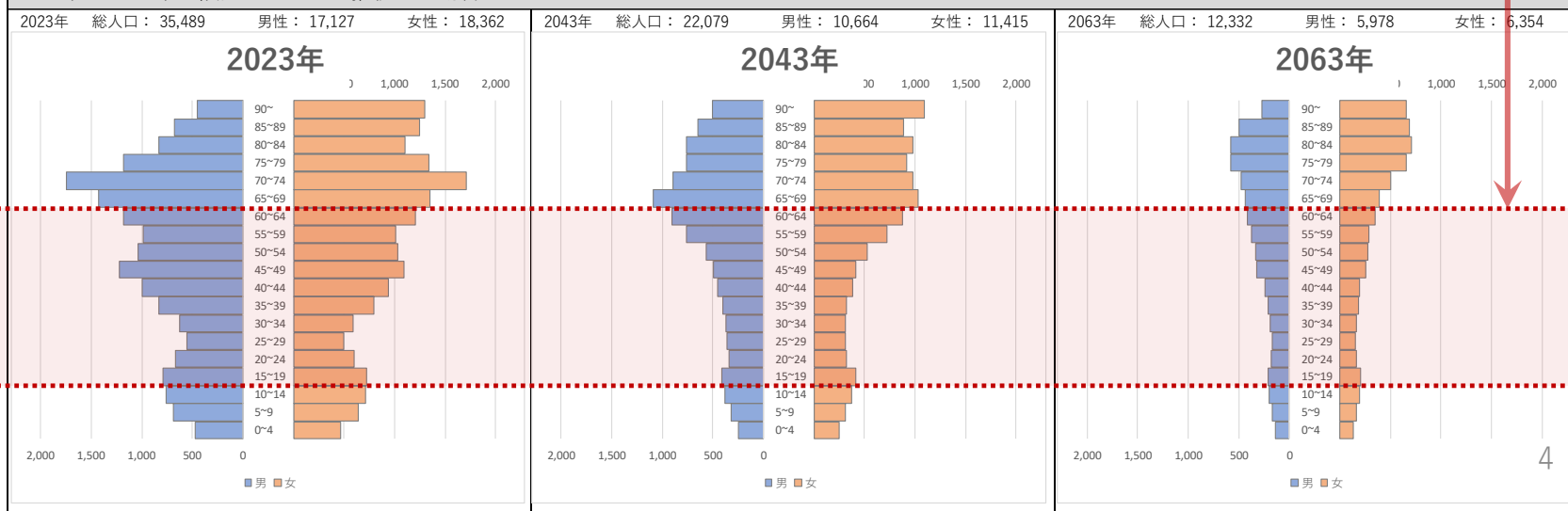
(参考) 現状で推移した場合の人口シミュレーション



生産年齢人口の急激な減少が課題

人口ピラミッドの推移

2017年～2023年の傾向がそのまま推移した場合



2. 人口ビジョンの方針（案）

「人材還流」により人口減少社会においても持続可能なまちを実現する

人材還流とは… “人の奪い合い”ではなく、“つながり合う”関係性を大切にしながらUIターン、関係人口の拡大に結びつけていく。

いつでも戻ってこれる「みんなのふるさと」をめざす。

（1）「還流」による社会増の実現

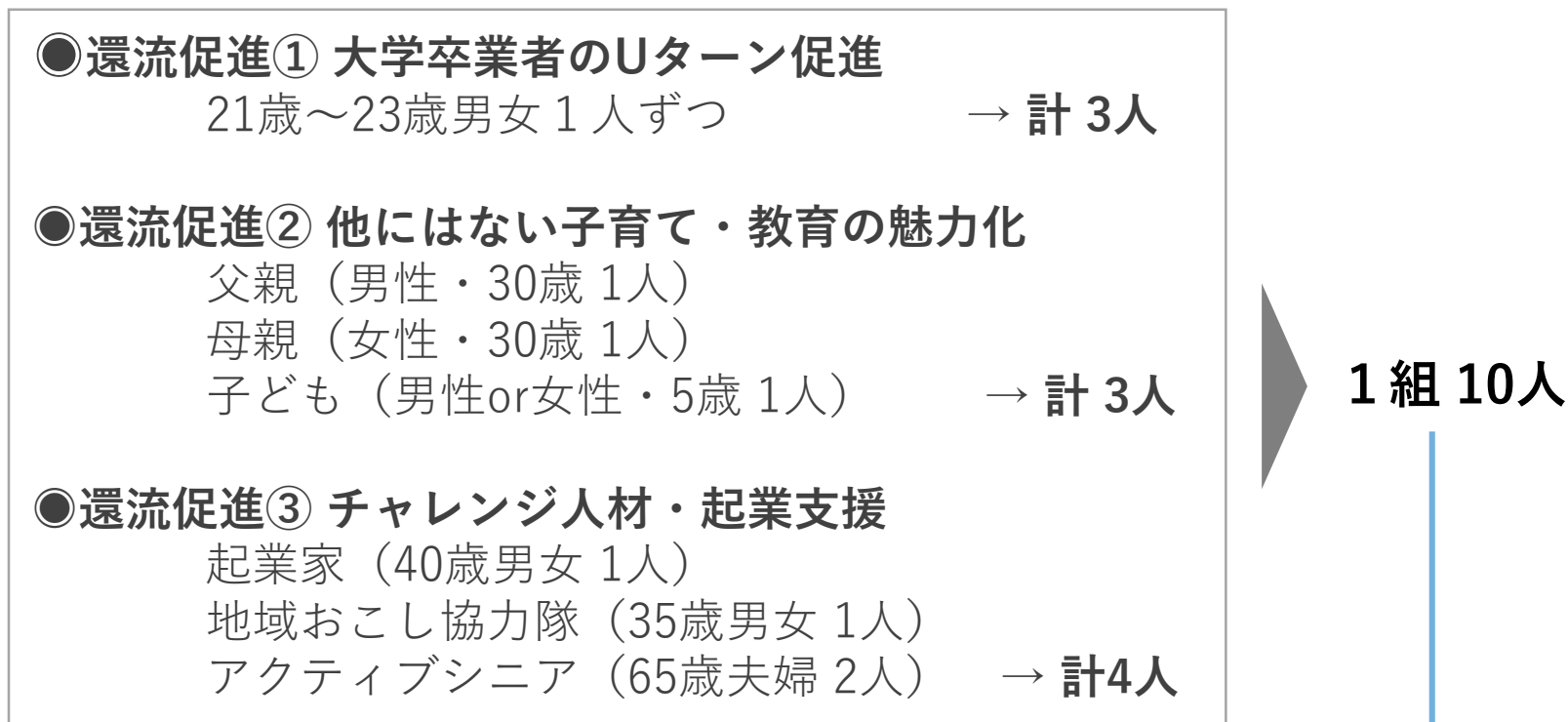
- ① 大学進学者の就職時のUIターン促進
- ② 子どもの小学校入学時の家族のUIターン促進
- ③ チャレンジ人材のUIターン促進

（2）地域づくりの担い手としての関係人口の創出

- ① 雲南コミュニティ（県外で就職している雲南出身者）
- ② 雲南市と付き合いを継続する市外在住者

3. 人口推計シミュレーション

「人材還流」として想定するシナリオとペルソナ（Uターン者像）



各年での移住増+転出抑制が、目標達成のために何組必要かをシミュレートする。

※ シミュレーションの組数は、現状の転入数への上乗せ追加分として考える。

※ 合計特殊出生率の設定：2034年（R6から10年後）に1.80を達成

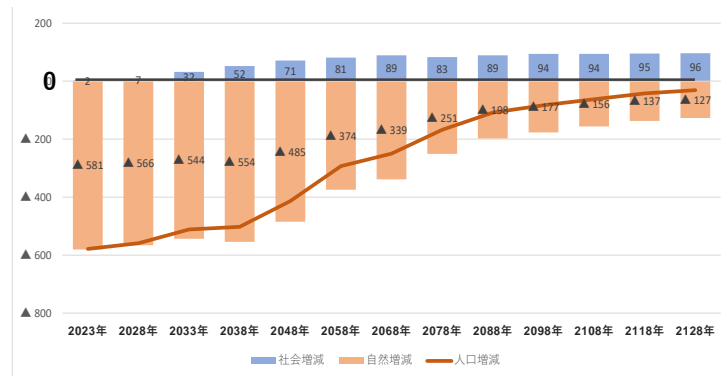
4. 社会増の目標設定とシミュレーション結果

目標設定

結果

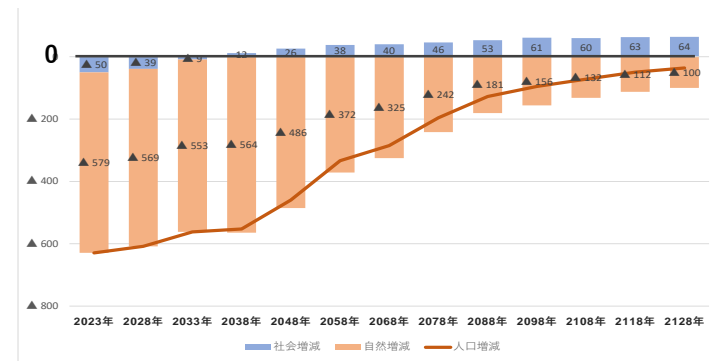
① 2025年に社会増達成

15組 (150人)
 毎年の増加・転出
 抑制が必要



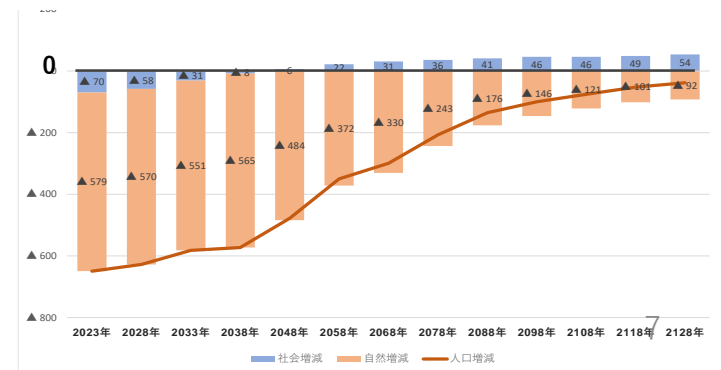
② 2035年に社会増達成

10組 (100人)
 毎年の増加・転出
 抑制が必要

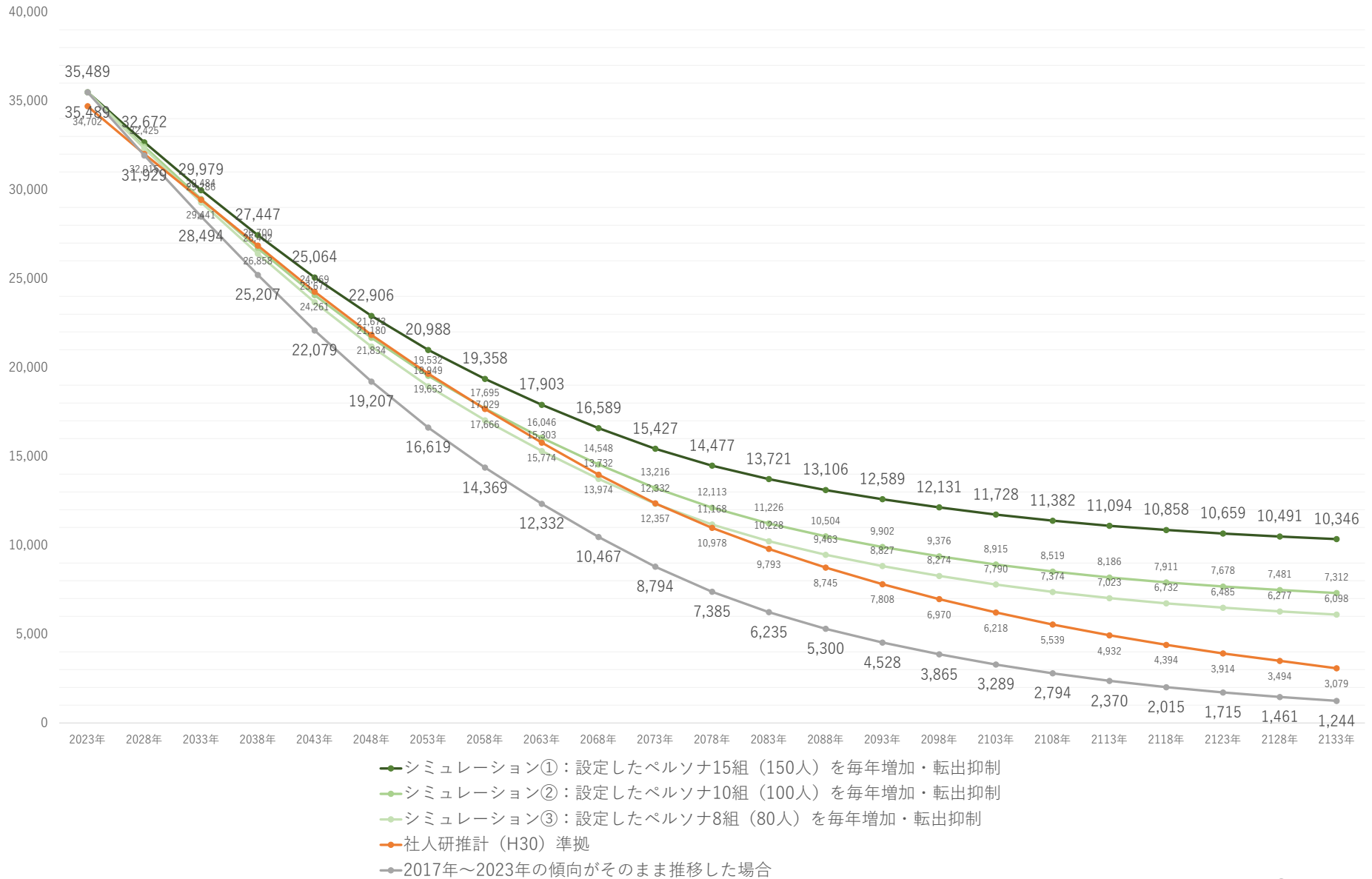


③ 2045年に社会増達成

8組 (80人)
 毎年の増加・転出
 抑制が必要



(1) 将来人口の推計結果 (2133年までの推計値)



(2) 人口ピラミッドの推移

現在

20年後

40年後

60年後

100年後

現状
推移

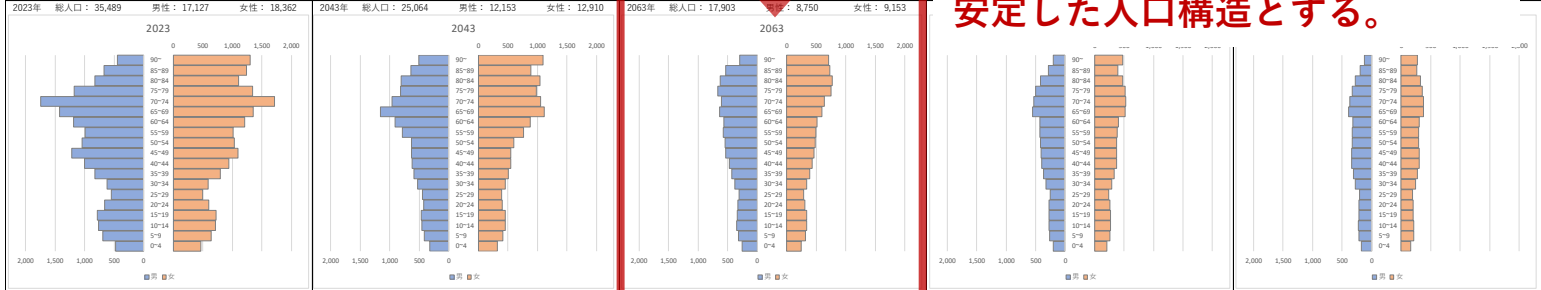
2017年～2023年の傾向がそのまま推移した場合



生産年齢人口の減少を緩和し、
安定した人口構造とする。

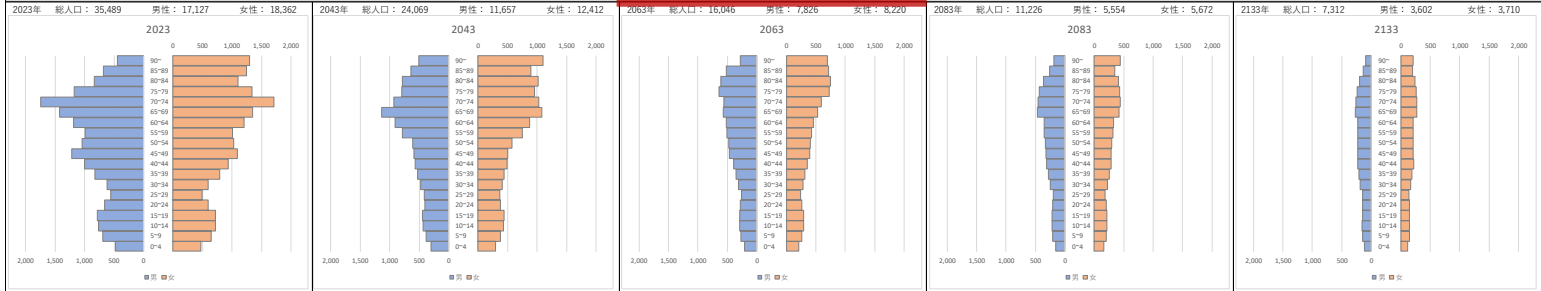
①

①シミュレーション (1)



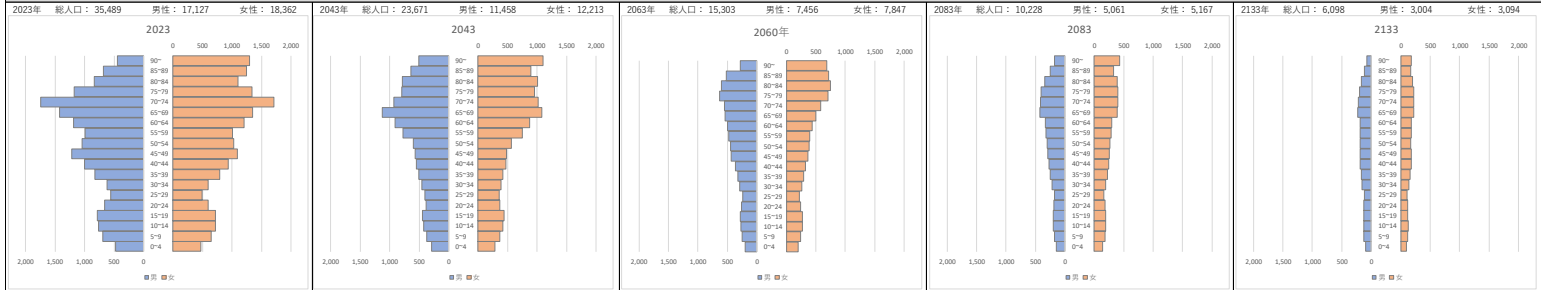
②

②シミュレーション (2)



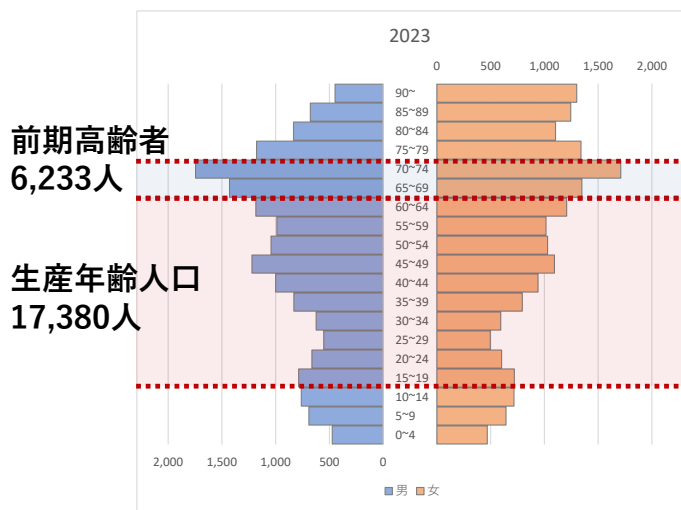
③

③シミュレーション (3)



5. 地域の担い手の減少 – 関係人口はどれくらい必要なのか

現在の実績値 (2023年)



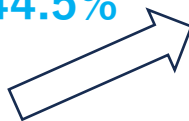
前期高齢者 ↓ 36.0%

2,243人 減少

生産年齢人口

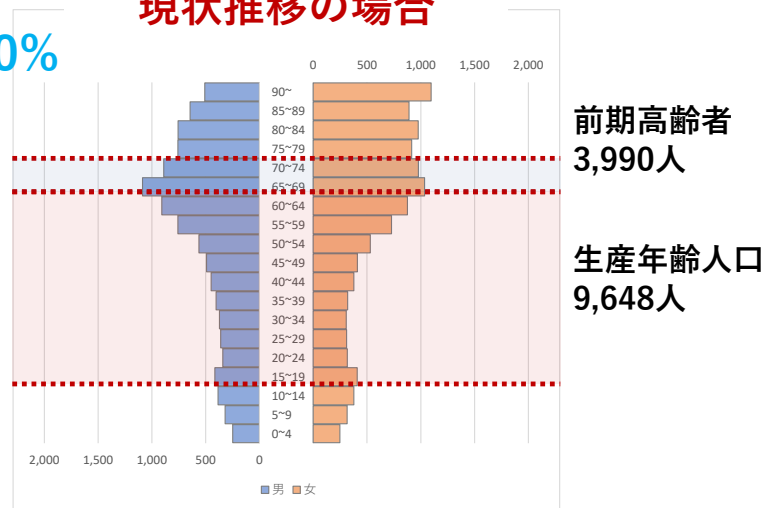
7,732人 減少

↓ 44.5%

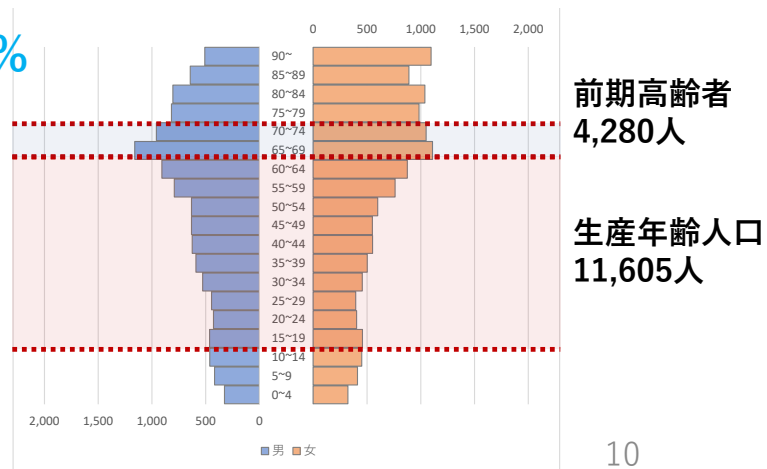


20年後の推計値

現状推移の場合



シミュレーション①の場合 (毎年150人増)



↓ 31.3%

前期高齢者

1,953人 減少

生産年齢人口

5,775人 減少

↓ 33.2%

社会増を達成する場合でも、20年間で地域の担い手が7,000~8,000人規模で減少。

関係人口1人の担い手力を1/10とすると、1年あたりで創出が求められる関係人口は4,000人となる。

5. 地域の担い手の減少 – 関係人口はどれくらい必要なのか

【人口減少による生じる影響】

- (1) 生活関連サービス（小売・飲食・娯楽・医療機関等）の縮小
- (2) 税収減による行政サービス水準の低下
- (3) 地域公共交通の撤退・縮小
- (4) 空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地等の増加
- (5) 地域コミュニティの機能低下
 - ・ 町内会、自治会など住民組織の担い手の不足
 - ・ 消防団の団員数の減少による防災力の低下
 - ・ 学級数の減少、クラスの少人数化
 - ・ 地域の祭り、伝統行事の継続の困難化
 - ・ 住民同士の交流機会の減少

【想定される対策】

- 関係人口の拡大
- デジタル化・DX
- 高齢者・女性の活躍
- 外国人の受け入れ 等